

からだの供給、からだの肢体、からだの制限

聖書：ピリピ 1:19. I コリント 12:15, 21, 27.

ローマ 12:5. エペソ 4:7. II コリント 10:13

I. からだの供給は、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給であり、それは複合の膏油（聖なる塗り油）によって予表されています——ピリピ 1:19-21 前半. 出 30:23-25 :

A. 複合の霊はからだの中にあり、からだのためであり、からだを建造する祭司の奉仕のためです—— 26-31 節. ローマ 15:16. I ペテロ 2:5, 9.

B. 詩篇第 133 篇によれば、兄弟たちが一の中に共に住んでいることの計り知れないすばらしさと、数えきれない喜ばしさは、尊い複合の膏油にたとえられています——エペソ 4:3.

C. わたしたちは肢体のとりなしと交わりによって、その霊の供給を受けます :

1. わたしたちは乾いているとき、また前進することができないとき、他の兄弟姉妹にわたしたちのためにとりなしてもらうことを必要とします。そうしてはじめてわたしたちは切り抜けることができます——ピリピ 1:19. I テサロニケ 5:25. ヨブ 42:8-10.

2. わたしたちは自分自身を神の中へと祈り込んで、命を与える霊をわたしたちの供給として受けて、自分自身を養い、またわたしたちの顧みの下にあるすべての人を養い、からだを建造する必要があります——ルカ 11:1-13.

3. わたしたちはからだの供給なしに生きることはできません。ですから、わたしたちは絶えずからだの交わりを適用しなければなりません—— I テサロニケ 3:8. I コリント 10:16 後半. I ヨハネ 1:3.

4. わたしたちはからだの中で生きている限り、わたしたちの状態がどうであっても、からだの供給を受けます。

5. 人は光を見たいなら、召会、すなわち聖なる所に入らなければなりません——詩 73:16-17. マタイ 5:14. 啓 1:20.

6. からだ全体は、肢体の間で相互に依存することを通して建造されます—— I コリント 16:18. エペソ 4:16.

II. からだの中には独立や、個人主義はあり得ません。なぜなら、わたしたちは肢体であり、肢体はからだから離れて生きることはできないからです—— I コリント 12:27.

ローマ 12:5. エペソ 5:30 :

A. 一人一人の信者はキリストのからだの肢体であり、一人一人の肢体は必要不可欠です—— I コリント 12:15, 21. ローマ 12:3.

B. 「もしわたしたちがからだの中のわたしたちの地位を真に見るなら、わたしたちは二度目の救いを受けたかのようなのです」（ウオッチマン・ニー、「キリストの奥義」、第 3 章）——ヨハネ 1:50-51. I テモテ 3:15.

C. 自分がからだの肢体であることを見る人たちは、必ずからだを尊び、他の肢体を尊重します—— I コリント 12:23-24. ピリピ 2:29. I コリント 16:18. 士 9:9.

D. からだの啓示がある所には、からだの感覚があります。からだの感覚がある所では、

個人主義的な思想や行動は除き去られます：

1. わたしたちはからだを知りたいなら、わたしたちの罪深い命と天然の命から救い出されるだけでなく、わたしたちの個人主義的な命からも救い出される必要があります。
2. 御父がこの世に相對し、その靈が肉に相對し、主が悪魔に相對するように、からだは個人に相對します。
3. わたしたちはかしらから獨立することができないように、からだからも獨立することはできません。
4. 個人主義は、神の目に憎むべきものです：
 - a. からだの敵は自己、獨立した「わたし」です——マタイ 16:21-26。
 - b. わたしたちがからだの中で建造されようとするなら、自己は罪定めされ、否まれ、拒絶され、放棄されなければなりません。
 - c. わたしたちは神に依存すべきであるだけでなく、またからだにも、すなわち兄弟姉妹にも依存すべきです——出 17:11-13. 使徒 9:25. II コリント 11:33。
5. わたしが知らない事を、からだの別の肢体が知っているでしょう。わたしが見ることのできない事を、からだの別の肢体が見るでしょう。わたしが行なうことのできない事を、からだの別の肢体が行なうでしょう。
6. もしわたしたちが肢体仲間の助けを拒絶するなら、わたしたちはキリストの助けを拒絶しているのです——I コリント 12:12。
7. 遅かれ早かれ、単独なクリスチャンはみな枯渇するでしょう。

III. からだの肢体として、わたしたちは他の肢体の制限を受け、わたしたちの度量を越えないようにしなければなりません：

- A. からだの成長と発展に対する基本的な要求は、わたしたちが自分の度量を認識し、それを越えないということです——エペソ 4:7, 16。
- B. かしらはわたしたちをからだの中の特別な地位に置き、わたしたちを特別な機能に割り当てます——I コリント 12:18。
- C. わたしたちは自分の働きや、経験や、主に対する享受について証しをするとき、度量の範囲内で、すなわち、一定の限度の中で証ししなければなりません。
- D. わたしたちは働きが拡大することを期待しますが、どのように神の制限の下にいるかを学ばなければなりません。わたしたちは限度のない拡大を期待すべきではありません——II コリント 10:13-15：
 1. わたしたちがその靈にしたがって働きを拡大させるなら、常にある種の制限があるでしょう——参照、2:12-14。
 2. わたしたちは、主が働きをある程度までしか拡大しないという感覚を内側で持つでしょう。わたしたちはある種の限界を越えて働きを拡大させるとき、わたしたちの内側には平安がありません。
 3. 主は外側で、環境の中である事柄を起こして、働きの拡大を制限するでしょう。環境は、わたしたちが特定の境界線を越えることを許しません——参照、ローマ 15:24。
 4. わたしたちはパウロのように、神がどれほどわたしたちに割り当てたかにしたが

って動き、行動して、神の尺度、神の度量の制限の中にとどまるべきです——Ⅱ
コリント 10:13。

5. わたしたちは召会の奉仕において、神がわたしたちに割り当てている度量を認識
する必要があり、背伸びすべきではありません——ローマ 12:3-4, 6 前半。